

光市医師会報

平成7年7月号

No. 273



弥生の館

光市医師会

〈会員広場〉

老人医療

河内山 清

手の平を上向きにした握りこぶしと、直角に曲げた肘とを水平に動かして巧みにバランスをとり乍ら、伸び上げる様にしては片方の下肢を引きずって歩く独特の親しみのあるスタイルで、脳卒中後遺症の患者さんが入って来た。毎日の散歩を生き甲斐にして、その途中時々立ち寄ってゆく、うちの上客の一人である。診る側のお医者さんより二倍も三倍も元気そうなおじいさんである。

今日はどうしたの。「風邪を引いた」

(風邪医者のところへ風邪と云う診断名を付けて来て呉れる患者さん程有難いものはないのである) 熱はあるかね。「熱はない」 咳は? 「咳は出ん」 何かほかにいけんところがあるかね。「咳が出る」……この位で落ち込んで了う私ではない。

食慾はあるかね。「食慾は食へらえる」

(ま、いいが、食慾が食へらえて、ほかほかと悪寒がして、頭痛が痛まない様なら、すぐに死ぬ様なことはあるまい)。

ついでに血圧を測っておこう。146に82か。上等上等上にぎり。結構毛だらけ、おまけがついて三重丸やね。「すぐ忘れる。紙に書いて呉れ」 承知しましたお安いご用。すぐに書いて差しあげますよ。

(と云い乍ら目の前にある卓上日記を一枚破り取って書こうとする……この間四、五秒である)

上が140といくらじゃったかいな。い

や150何ぼじゃったような。下は80えーと80と何ぼじゃったかなあ。えーとこーと……。あんた覚えちゃらんか。「わしゃ知らん。わしゃ何んにも知らん」 そりゃそうだろうなあ、私が忘れてしもうて、あんたが覚えちゃったんじゃ格好つかんもんなあ。ええ面倒くさいもう一度測ろうや。(面倒くさいと云っては何度も一日中血圧測って居たのでは商売にならんのではないですか) 老人による老人医療も仲々楽ではないのである。

それじゃあお薬をあげちよくからね。「薬はのみとうない。ここの薬は何ぼう飲んでも効かん。薬はいらん」 云って呉れたなこの野郎。厚生省のまわし者みたいな口きいて。何とか市民団体の代表みたいな顔なんかするなつーの。こりゃあ修行した方がよさそうだな。飲むぞ飲むぞ薬を飲むぞ、どどん薬をのむぞ、飲むぞ飲むぞ、効いても効かなくても薬をのむぞ。泣く子も黙る恐怖の仕掛人、ヘッドギアもかませた方がいいかも知れんな。目つきがとろんとして来やがったな。そろそろきいて来たぞ。

そんじゃまあ風邪を引く薬と、降圧剤の副作用増強剤と抑制剤と、筋心梗塞金玉振り禁止剤とをあげとくからね。(患者さんが薬をのみたがらないのも、ちゃんとした理由があるのである)

「生きちゃってもつまらん。早よう死にたい。早ようお浄土へ行きたい」 ふーん、

そうかねえ。それじゃったらおおかた今年中には何とかなるんじゃないの。ハゲマルドンを近いて云うし。何なら請合ってもいいよ。どっちへ行くことになるかはよう請合はんが。

こちらとしては軽い意味のストレス解消のつもりである。逆療法で刺戟を与えて元気になるって貰いたいつもりである。然し乍らこの私のささやかなストレス解消の為に、私の小さな善意、小さな親切運動のために、病気でか弱くデリケートになったハートを突き刺され、傷つき落ち込んで了って好ましくない結果になって了う患者さんは、星の数とはゆかないまでもゴマンと居られるのである。近々被害患者救済弁護団が結成されるとかされないとか。

三十年近くも前のことである。大竹市に居る友人が木曜午後休診をはじめた。ギブスを巻く為と称してはじめたが、ギブスは忙しい日に巻いて専ら遊びにあてて居る。こんないいものはないぞと云う。さすがは私の友人である。開業医はまだ昔気質が残って居て日曜日午前中は診療して居た時代である。多少の心の抵抗、後ろめたさはあったが、こう云う誘惑には務めて勝とうとしないのが私のよいところである。滅多に奮い起したことの無い勇気をふるい起して決断を下した。嘘の証言で家内を云いくるめて(あとで問題になった)木曜午後休診をはじめた。周南地区ではまだ殆どだれもやって居なかった。県内でも少なかつた様に思う。

そしてもっぱら山へ柴刈りに行った。ナイスイン。時には人里近くでよその畑の草むしり。これ又ナイスイン。一、二年もす

ると出家者が続出して休診教の信者はみるみるうちに増えて行った。元祖原要の外部と並んで元祖木曜午後休診……医師会に入会して三十と有余年。私になし得た唯一の医師会活動である。私が今熱心にやって居るフオト、オブザヘア撲滅運動に絶対反対するボランティア活動は医師会貢献活動とは云えないだろうから。

ところがである。二年位前から木土午後休診のお医者さんが出現したのである。元祖、教祖、尊師としては面子の問題である。

直ちに白旗を掲げて私も仲間に入った。月曜は月曜病をこらえ乍ら働く。火曜日は泣く泣く働く。水曜午後位になると明日の午後を楽しみに働く。金曜日は土曜日に夢をふくらませてやっとこさで働く。こうして何とか一週間が過ぎて行く。

はじめのうちは患者さんが、ここは休みばかりやなあ、と云って居た。最近はどうあきらめて何も云はなくなった。従業員はご気嫌である。私の肩をもみましよう、お腰を揉みましようとは云って呉れなかったが、その分患者さんへの当りはいい様である。若い元気な先生方にはすすめられない。私の様な夕暮族、中肢筋無力症の人のやることである。今から何年間のいのちが分らないが、今後共ななめ後ろ向きの姿勢でやってゆきたいものだと思って居る。

患者さんには、手がきかないから注射は勘弁して呉れと云い、ヘアヌードを見る時はこまめに指先を動かす。セッセッセ。ソウイウ人間二私ハナリタイ。

〈会員広場〉

私の勉強法

富 恵 哲

十数年前、医師会報に「おしゃべり」と題して、私自身の勉強法を述べた事がある。学会で症例報告をすると止む得ず文献を漁り本を読み勉強をせざるを得ないと書いた。

最近、眼がかすんで本が読みづらい上、物事に取り組むのがおっくうになり学会で発表どころではない。医師会の勉強会へも、なかなか尻が上がらないのが現状である。県医師会も此のような年寄りに手を焼いて生涯学習に色々苦慮しているのであろう。

何か方法は無いものかと思案していた所、たまたま読んでいた小児科雑誌に「小児科認定医とその評価」というエッセイが載っていた。認定医制度の発足の目的は、それぞれの専門領域に於ける医師の質の向上と一定のレベル維持を画り、社会の期待に応える事を挙げている。併し、学会が認定した認定医、専門医の評価は誰にして貰うのか、社会の人が認めてくれて初めて認定医であろうと書いてある。小児科の看板を出しても、トレーニングを積んだ小児科認定医としての価値を母親達が認めてくれるのは何時の事であろうと結んでいた。

私も暫定の外科認定医を貰った、外科学会、臨床外科学会の会費を40年も払えば、書類提出だけで、OKであろう。ついで、消化器病学会の認定医も過去の消化器疾患の学会発表のコピーでOK。スポーツドクター、東洋医学会等々、六つの認定医を貰

った。学会へ入って居り、医学大会へ出席して認定医の条件が整えば証書を頂ける。併し、その都度審査料、認定料と数万円のお金を徴収されている。友人のW君、「高い認定料を取られても、診療費への恩典は何も無いのだから阿呆らしい。俺は認定医は貰わない。」と言っている。

私の患者に、何でも免許を取る事の好きな奴が居る。車でも普通から始まって、二輪、大型、特殊等々、その上、船舶の4級を持ちながら一級を狙っており、また調理師の免許まで貰おうとしている免許狂いが居る。私もその類いかもしれない。

小児科認定医のエッセイを読んで、折角頂いた認定医、これを維持する為、努めて学会誌を読み、学会へ出る事を自分に義務づけ様と考えた次第である。

数週間前、プライマリケア学会の認定医を貰う事が出来た。学会が始まって以来の会員なので、申請の条件は揃って居ると考え、書類を提出する事にした。古いカルテを調べて三ヶ月を費やしてレポートを完成。久振りに勉強の真似事をした様な気分になる事ができた。お陰で審査委員から「素晴らしいレポートに敬意を払う」との手紙を頂戴してびっくり。

名古屋での日本医学学会に出席したが、新しい医学はどんな方向に進んでいるのかと考えさせられる事が多かった。先日の熊本

のプライマリーケア学会へ出掛けたが、分科会での開業医の在り方と言う討論を興味深く聞く事が出来た。学会への出席は、認定医の更新にも繋がるが、矢張り新しい医学が身に付くような気がする。

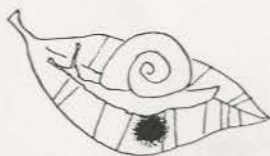
勉強ばかりではない。学会の夜は、名物の食べ歩きである。名古屋では、娘がテレビで見たと言う名物(?)の“みそカツ”を探して食べて見た。片道 3,000円のタク

シー代を払って、3,000円余りの“みそカツ”を食べた次第。熊本では、馬刺しで一杯。お土産に“からしれんこん”を買って帰り、吾が家で旅の疲れを癒すビールも楽しいものである。

認定医の持続の為に僅かな楽しみの食べ歩きの為に、これからも努力をして学会へ出席しようと考えている。

6 月 医 師 会 月 間 行 事

日	行 事	場 所
6	レントゲン勉強会	医師会事務局
9	心電図研究会	光市立病院
14	定例理事会	医師会事務局
27	月例会・学術講演会	光商工会館大研修室



6月定例議事会

日時：6月14日(水) 午後7時30分～
 場所：医師会事務局（光商工会館内）
 出席者：近藤、前田、赤崎、藤原
 光武、梅田、市川、吉村

議題：

- 1) 休日診療所要望書(案)について(梅田)
市へ提出する要望書(案)を梅田理事が提示する。
- 2) 郡市保険担当理事協議会の報告(光武)
- 3) 光商工会議所との契約について(近藤)
賃貸契約書を検討。契約書の文章で「契約の日より3ヶ年毎に契約内容について契議する」と言う箇所が少し問題があるのではないか。
- 4) 市長への要望書についての検討(近藤)
周南医学会の特別講演を市民公開講演の予定にしているため、市へ提出する要望書(案)を近藤会長が提示
- 5) 湯野温泉病院の老健施設開設承認申請について(近藤)
理事会了承
- 6) 当医師会の老健開設申請に対する諮問委員会の答申の報告及びその審議(近藤)
諮問委員会の答申をふまえて討議したが理事会の結論は出なかった。再度審議をして結論を出す。
- 7) その他
 - ㊦ 図書購入の件
 - ㊧ ビデオライブラリーの件
 - ㊨ 医師会事務員の件
 - ㊩ 学術講演会のビデオを撮って保管したらいいのではないか

- ㊪ 会長交際費の使用状況の説明
- ㊫ 納涼懇親会—7月27日(木)午後7時～
- ㊬ パラメディカル部門の教育の件
- ㊭ 保健婦との話し合いの件
- ㊮ 光市学校保健会総会の件

6月例会・学術講演会

日時：6月27日(火) 午後7時～
 場所：光商工会館大研修室
 出席者：24名

〔1〕学術講演

「肝癌の診断と治療・特に免疫療法について」

山口大学第2外科助教授

岡 正朗先生



〔2〕6月度例会

- 1) 郡市保健担当理事協議会の報告
光武理事
- 2) その他
 - ㊯ 光商工会議所との契約の件
共益費—今年度は毎月15,000円
 - ㊰ 7月10日に国保出張受付
 - ㊱ 納涼懇親会の件



役員協議会報告**郡市医師会労災自賠責****担当理事協議会に出席して****理事 光 武 達 夫**

6月22日県医師会館において自賠責担当理事協議会が開催された。今回の協議会の主題は山口県の自賠責（強制）保険及び自動車保険（任意）にかかる医療問題について協議を重ねてきた結果次のような結論に達したということが、井上委員長、藤井非常理事より報告され算定基準案の採用が承認されたということである。

自動車事故傷害患者に対する診療費の算定基準案に関しては平成元年6月日本医師会より「自賠責保険の診療費算定基準の設定について」と題して次のとおり示された。

1. 自動車保険の診療費については、現行労災保険診療費算定基準に準拠し、薬剤等「モノ」についてはその単価を12円とし、その他の技術料については、これに20%を加算した額を上限とする。

2. ただし、これは個々の医療機関の診療費の水準を引き上げる主旨のものではない。この診療費算定基準案の考え方を具体化し、実施するにあたっては、各地域の実情に合わせて各都道府県の三者協議会で協議し、対応することとされた。これを受けて山口県医師会は診療費算定基準案の内容およびその運用（特に健保使用、治療費減額、過失相殺に関する事）について、6年間に亘って慎重に協議を重ねてきた。その結果、三者協議会において諸問題につき概ね合意に達するに至った。そこで平成7年5月11

日に開催の平成7年度第2回山口県医師会理事会において上記算定基準案の採用が承認され、実施に向けて具体的な作業に入ることになったので郡市医師会もこれに歩調を合わせ協力してもらいたい旨の報告と要請がのべられた。

この自賠責の算定基準案の採用が認められるであろうことは全国的な動向であり、大方の予測は出来ていたが思ったより早くバタバタと採用が決定されたのは意外であった。あまりにあっけない幕切れであったので肩すかしをくらったような感じがしないでもない。あれだけ郡市医理事協議会ですったもんだした問題であり賛否両論が出つくて煮つまったとは到底思えない。もう結論が出て今後どう実施しようかという今回の協議会においても不安と困惑の入り混じった質問があいつぎ県医師会ひいては日本医師会の後退と譲歩に対しての姿勢を問う意見も聞かれた。私もこの新基準が採用されたら損保側からの支払いの遅延やまたトラブルがほんとうに減るのが質問してみたが明確な回答は得られず、これを採用している府県では減ってきているという程度で決して皆無ではないようでありあまり期待は出来ない。損保からの支払いも迅速に行われず、診療報酬は今までより減額され（入院）、請求事務だけが面倒くさくなったんでは踏んだりけったりではないかと思われる会員の方も多い事とありますが長年慎重に検討を重ねられて決定された事ですから郡市医師会も協力していかねばならないと考えます。しかし走り出してからも考え続けることは今後共必要だと思えます。

この新基準を実施していく上においての

タイムスケジュールは平成7年10月診療分より適用、6ヵ月の準備、移行の期間を経て、平成8年4月1日より正式に実施するという県医側の方針が示されました。

生涯教育担当理事協議会の報告

理事 赤崎 信正

6月15日に生涯教育担当理事協議会がありました。議題は例年どおり、生涯研修セミナーと郡市の学術講演の内容でした。会員の先生の興味や関心のある内容にして、少しでも参加者が増えるにはどのようにしたらよいかと議論しましたが、よい知恵はありませんでした。

次に平成7年の山口県医学会総会の内容の発表があり、続いて平成8年の山口県医学会総会は徳山、平成9年の山口県医学会総会は山口ときまりました。

最後に平成6年の日医生涯教育制度の申告状況の発表がありました。光市は丁度、県の平均の50%ですが、昨年よりも申告率が低下しています。来年度は是非申告のほどお願い致します。

勉強会

心電図研究会 (第84回)

光市・下松医師会合同

日時：6月9日(金) 午後7時30分～

場所：光市立病院

出席者：14名(光—8名)

症例：

- 1) 35才、♀、主訴—心窩部痛、
診断—HELLP症候群

- 2) 60才、♂、主訴—動悸、胸部不快感、
診断—肥厚性心筋症
- 3) 28才、♀、主訴—夜間の呼吸困難、
診断—右心不全

レントゲン勉強会

日時：6月6日(火) 午後7時～

場所：医師会事務局

出席者：11名

講師の岡本安定先生が、会員の症例と先生持参の症例を解説された。

会員動向

(入会)

三浦正子先生 光市立病院耳鼻科

(平成7年6月1日入会)

6月例会で、お元気に挨拶を
される田村先生



平成7年度光市学校保健会総会

日時：6月29日(木) 午後13時30分～

場所：光市役所3階大会議室

(議事)

- 1)平成6年度事業報告及び決算報告
- 2)平成6年度会計監査報告
- 3)平成7年度役員選出
- 4)平成7年度事業計画(案)及び予算(案)
- 5)その他

[平成7年度事業計画(案)]

- 1)各校保健委員会の活動の強化
- 2)研究活動の推進

①学校保健研究大会への参加

ア)第28回山口県学校保健研究大会

イ)第41回中国地区学校保健研究協議大会
(山口市)

ウ)アレルギー問題事例研究

(豊浦養護学校)

エ)その他研究発表大会

①研修会の開催

自主研修会の積極的開催

3)児童生徒の体力・運動能力の調査研究

4)その他

①心臓病検診(医師会)

②よい歯のコンクール(歯科医師会)

③研究資料等の配布

(講演)

(1)「学校における歯、口腔の健康診断の改正について」

中川歯科医院 中川裕之先生

(2)「肥満と小児成人病について」

河村医院 河村裕子先生



平成7年度役員(案)

役職名	選出部会	氏名
会長	学校医部会	前田 昇一
副会長	学校長部会	川本 浅夫
	学校薬剤師部会	野村 智城
	P T A 連合会部会	稗田 泰久
理事	学校医部会	中村 国雄 前田 昇一 光武 達夫 吉村 明人
	学校歯科医部会	国本 法雄 中川 裕之
	学校薬剤師部会	野村 智城 大戸 富美子
	学校長部会	秋本 元之 川本 浅夫
	P T A 連合会部会	龍角 信夫 稗田 泰久
	保健主任・養護部会 栄養職員部会	湊谷 道彦 堅田 章子 国信 昭子 藤田 紀美子
	教育委員会	友利 裕通
監事	学校医部会	光武 達夫
	学校長部会	秋本 元之
	P T A 連合会部会	龍角 信夫

香津先生送別会



5月25日にホテル松原屋において、光市立病院に16年間勤務された香津先生の送別会がおこなわれました。

先生のお人柄と、在職中の会員の日常診療に大変ご尽力をいただいた事に感謝して、多数の会員が参加して盛大におこなわれました。

ⅢⅢ あとがき ⅢⅢ

むし暑くて、うっとおしい日がつづいております。

今月の初めに光市文化センターで門蔵山古墳展がひらかれておりましたので見に行きました。水晶の切り玉が印象深いものでした。帰りに文化センターの庭に堅穴式住居を見かけましたので、表紙の写真に使いました。三井岡原で発掘された弥生後期のもので、他地域のものを参考にしながら復元したものだそうです。この日は大変暑い日でした。古代人は窓の無い家屋で暑さをどのように凌いでいたのでしょうか。

もうしばらくで「大暑」をむかえます。1昨年が冷夏、昨年が猛暑でした。今年はどんな夏が待っておりますか。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	近藤龍一
編集者	広報担当
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社